

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム はなかわ 1ユニット	評価実施年月日	平成22年3月1日～3月10日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月10日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	全職員にホームの理念が浸透し理解するように職員会議で毎回話し合っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	○	季節行事やレストラン会食の時、御家族様の方にも一緒に参加して戴けるようご案内している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	利用者様と散歩や畑作業の時にも顔見知りでない方にも出会う方々に挨拶をしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	ホームでの夏祭りに町内会の方々にも参加して戴き交流を深めている。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	職員全体会議の時に話し合いの機会を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自分たちの考えや他ホームの考えの情報を聞き良い所は取り入れ実行している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議に家族や地域の方々に参加していただき、状況報告後話し合いを行い皆さんの意見を聞き出来ることは直ぐに行っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村に解らないことがあれば聴きに行き利用者様の御家族などの問題等を話し合っている。こちらの言い分を受け入れてくれない事があるので解決しなければいけないと思われる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者や職員はこれについてすでに話し合いをしており、個々の必要性を関係者に話し合いホームでは生活保護の受け入れ、後見人制度を利用している。</p>	○	新しい職員はこれについて学ぶ機会を持っていないので話し合いをしていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識している。虐待を発見した場合は報告し直ちに職員全員で防止する規定になっている。</p>	○	利用者様への言葉づかいは十分に気をつけており、至らないのを発見したら直ちに注意し防止している。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約書を御家族の前で読み上げ説明しており不安、疑問を聞き充分な説明と話し合いを行い納得して戴いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御利用者様の意見や不満などを聴き御家族様と話し合い改善している。役所に直接不満をぶつけてもらっている。其の意見を取り入れ出来ることは改善している。	○	6ヶ月に1回御家族様とカンファレンスを行い介護支援の見直しをしている。状況、必要に応じても見直しをしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御利用者様の御家族様に2ヶ月に1度のホーム便りを送って暮らしぶりを御伝えており、また来訪時や電話で御利用者様の日常の様子を伝えている。	○	本人の欲しがる物、必要な物の買い物をしている。御利用者様一人一人のお小遣い帳を付け御家族様の方に確認して戴いている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情箱を設置している。投函しづらい場合はリンクルへ苦情申し立てできるように記載している。	○	リンクル職員の訪問を受け、昼食を一緒にして戴きながら御利用者様との会話の機会を持って戴いている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聴き改善し良いと思われることは実施している。	○	月に1度職員会議が行われており意見や提案の話し合いが出来る。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員は利用者様3人に1人で維持できるよう勤務ローテーションを組みダメージを配慮している。	○	ホームの行事や必要時に応じて4名から数名の職員で対応している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者が居ても馴染みの職員がいつも居り、新しい職員を加えローテーションを組ダメージを配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>其のレベルに応じた研修を受けさせている。また、担当看護師と共に職員に感染予防などの実技講義等を行っている。消防署から救急救命の実技講習も行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>運営者は常に地域の同業者とあまり交流がないが管理者職員は地域で開催される研修会などに参加している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職場での食事会の参加を何度募ってもほとんどの職員が参加しなかったため食事会は中止となってしまった。</p>	○	新しく職員が増えたので今後交流会を再開しようと計画している。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は全て把握している。また、運営者は職員が御利用者様の介護支援の時間をより多くする為調理・清掃・その他に気を使っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>話しやすい雰囲気作りをしながら、良く聴く機会を作り受け止めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>良く聴く機会を作っている。双方納得がいくまで話し合いし、安心して御利用していたできるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族様と御本人様と話し合い、御本人様にどういった介護が必要なのか御本人様の状態を確認し他のサービスを受けられる状態であれば他のサービスも利用する。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御本人様の性格や状況に合わせて無理なく馴染めるようにスタッフが同行ったり顔なじみの人が同行ったり無理なく馴染めるように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	御本人様が出来ることを探し、できる事をスタッフも一緒に同じ事をやってあげ分からないことは聞きながら御入居者様がわからなければ教えながら時を過ごすようにしている。	○	御本人様が出来ることは見守りながら行ってもらう。御本人様から教えてもらったことは共に喜怒哀楽を分かち合う。室内室外で行事レクリエーションでは感情豊かに喜び合っている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御本人様のことをいつも御家族様と相談し、ともに御本人様のことを心配しあえる関係ができています。	○	御家族様が来訪の際ホーム内での日常の様子・体調・最近楽しかった事など御説明して安心してもらい、また不安・希望など聞いている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	年に数回行事の中で御家族様を食事会に招待し御利用者様・御家族様・職員同士のよりよい関係を築いている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	通院の際、馴染みの人と会う機会がある御本人様が御家族様と自宅に遊びに行ったり、以前に行っていた馴染みのスーパーへ職員と買い物に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一階二階の御利用者様と交流を深めながらトランプ・カルタ・風船バレー・カラオケ・散歩または日本舞踊を見たり係わり合いに努めている。	○	一階二階の御利用者様の交流を深めながらトランプ・カルタ・風船バレー・カラオケ・合唱(懐かしのメロディ・童謡など)散歩など楽しく過ごせる時を数多く作りたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	御本人様にも御家族様にもいつまでも話し合いを持って、空気があればいつでも入所出来るようになっている。御家族様が介護に協力的理解を持っている。また、運営推進会議やホームでの行事などにも参加されたり遊びに来てくださるなど交流を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中からご利用者様の思いや希望を把握し汲み取るよう努めている。	○	日頃の会話の中で御利用者様の思いや希望を把握し御本人様の希望が常時変わり把握できない時には御本人様の意思を尊重しつつ見守りをする。日常的にデイケアを利用している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御本人様の生活史などを把握するシートを作成し把握に努めている。	○	昔話などは生き生きと話されるので差し障りのない程度に聞いてあげる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態の変化など個別に記録し現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成する際は、御利用者様・御家族様の意見を聞き、御利用者様の状態変化・現状・主治医の所見などスタッフと看護師でミーティングを開き検討しあいケアプランに反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体機能の低下等、状態の変化があった場合は介護支援専門員は看護師・指定専門医師とも相談の上適切な監理の上御本人様・御家族様・職員と話し合い随時の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護計画に反映させる為一人ひとりの日々の様子や変化を個別記録に記入し朝・昼・夕・の申し送りを行い情報を共有している。	○	ご利用者様に合わせトイレ回数などの記録、便の記録などで下剤の対応を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域の民生委員も地域運営推進委員に加わっていただき協力をえている。御利用者様の希望と御家族様の都合によりホームで投票にお連れしたり、御利用者様と御家族様をホームで送迎するなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要なお利用者様には地域後見人制度を利用している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	御本人様の希望によってデイケアサービスの体制を築けるようになっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談などしたり推進会議で協働している。	○	もっと研修会などに参加する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	スタッフが健康管理をしている。何かあった時には看護師・主治医に相談している。介護支援専門員から御家族様に報告している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医による月二回の訪問診療を行っている。状況に応じて専門医を紹介してもらって治療を受けるようにしている。	○	訪問鍼灸も行っている。治療結果良い効果が出ている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護士を確保している。日常の健康管理や相談を受けながら医療活用の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関とは早期退院に向けての話し合いを行っているが御本人様が改善するまでは医療支援を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時の段階から話し合いを進めているが重度化した場合や終末期には見取りの方向で考慮し各所に相談している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医や看護師と今後病状の変化について説明をうけどのような支援を行うかを決定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	別の居宅へ移り住む際には情報提供書などを作成し情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	「利用者様の誇りやプライバシーを損ねる職員には退職もあり得る」と言う姿勢で、御利用者様一人ひとりを尊重したさりげない介助が行われている、また記録など個人情報の取り扱いには十分な配慮を行っている。		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	職員は御利用者様それぞれの趣味や個性に合わせて何をしたいのか見極めて説明したり自分で決定したり中止したりして御本人様が納得出来るような生活を支えている。	○	もっとホーム内のレクリエーションなどを増やし御利用者様のやりたい事、喜ぶ事などを支援していく。
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	ある程度の決まりはあるが一日の流れを御利用者様の行動にあわせ支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	身だしなみは常時気を使っている二ヶ月に一度の訪問美容があり御利用者様一人ひとりの希望に合わせた支援を行っている。	○	希望があれば理容室にも予約をいれ送迎も行っている。
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	一週間のメニューを見やすい場所に掲示している。食事は出来るだけ味とカロリー計算をし味を楽しんでいただいている。	○	スタッフも同じテーブルで御利用者様と楽しい話をしながら食事を楽しんでいる。また、必要な御利用者様にはおかゆ・刻み食を提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の健康や食事の妨げにならないよう配慮し其の時々に応じて一人ひとりの状況に合わせている。	○	他の御利用者様の心情などを考えつつ御本人様の思考を出来る限り大切にしていけるがタバコについては防災の為全館禁煙になっている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便表・トイレ同行時の記録などを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、オムツや尿取りパットの使用や失敗を減らす為時間を決めトイレに誘導し失禁の改善に結びつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週4回の入浴日以外にも、御利用者様一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しんでもらえるように時間にゆとりを持った支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	御利用者様一人ひとりの状況にあわせ室外音や室内音に配慮しながら安心して休息出来るように、職員が常に見守りしている。また眠剤等の服用も主治医の指示により処方されている。	○	足が冷たいと眠れない御利用者様が湯たんぽを使用してもらうなどしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	御利用者様一人ひとりの生活歴やちからを活かし食器洗い・手芸・掃除の手伝い・鉢植えや畑の水やりを職員と共に行ってもらうなどをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で金銭管理が出来る御利用者様には、一人ひとりの希望や力に応じて買い物や金銭の管理を支援している。	○	金銭の管理に不安のある御利用者様にも、職員が協力して買い物を手伝うなど支援していける方法を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人一人の健康状態に配慮しながら希望に沿っている。また、天候に応じてはドライブをするなどの配慮をしている。	○	希望のある御利用者様と市立図書館を利用する等している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族様同伴での食事会を模様したり、個別あるいは他の御利用者様や御家族様と共に出掛けられるイベントを行っている。	○	気候が安定した時期には海へドライブに行く等、企画したイベント以外にも普段いけない場所への外出を支援している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	御本人様の希望に応じ、いつでも電話が出来るように支援している。また、手紙を書く際には一緒に漢字を調べたり、希望があれば音読するなどの支援もしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客に湯茶の接待をする他、おやつや食事時の来訪の際には御利用者様と共に召し上がって頂など、御家族様や其の他の来客が居心地よく過ごせる雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者の方針に元ずき、当ホームにおいては一切の身体拘束を行って居ない。また、身体拘束についてのプリントを職員に配布し、ホーム内にも掲示している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が居室や日中に玄関の鍵をかける事の弊害を理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、所在や様子を把握するよう努めている。夜間帯は5回の巡視を実施し、昼夜通して安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、御本人様にとって危険と判断した場合には、協力していただける御家族様には御協力を仰ぎながら、危険防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は看護師と共に、月1回の全体会議時に事故防止についての勉強会を開き、一人一人の状態に応じた事故防止に努め、嚙下運動や転倒防止の為の体力維持に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時の対応マニュアルの場所を職員全員が把握している。消防車職員による救急救命士の実施訓練を行い、初期対応や応急手当の訓練を実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施し、消防署から指導を受けている。災害時には消防署や職員に自動で通報が行くよう、火災通報装置が設けられている。また、運営推進会議での働き掛けで、災害発生時には、近隣施設との協力連携体制が出来ている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居前に御家族様に説明し、納得してもらうよう努めている。また、入居後にも御家族様同席のケアカンファレンスを実施し、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	月2回の訪問診療と当ホームの看護師により早期発見に努め職員も速やかに情報を共有し対応に結び付けている。その結果を記録し主治医に報告している。出来るだけ早く適切な処理をするよう心掛けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師から職員は症状と薬の説明を受け、服薬の支援、症状の確認に努めながら、看護師に様子や状態を報告している。特に誤認等発生しないように全員協力し確認し服薬していただいている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	当ホームの主治医に報告し便秘の御入居者様には医師の指示により便秘薬を調整している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後には義歯をはずし、口腔ケアの支援をし、イソジンでうがいをしている。義歯は週2回の消毒を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとり栄養バランスを重視し、食量、水分量が正確に解りやすいように書き出してからグラフに記録している。水分量も必要な量は保々確保できている。	○	一人一人の状態を見極めその人に合うようにおかゆ、刻み、とろみをつけたりしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防一式を各場所に設置している。マニュアルを作成し、職員の実施訓練も行っている。インフルエンザ、新型インフルエンザの予防接種も受けている。外出時はマスク着用、帰園時はイソジンでのうがい手洗いは必ず行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防に布巾、まな板、食器乾燥機等は夕食後消毒し、冷蔵庫は月1回掃除と消毒をし、汚れている際には其の都度掃除と消毒をし衛生を保持している。食材は毎日業者から届き新鮮な食材を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはプランターに花を植え、正面玄関にはスロープがあり、玄関には季節ごとの四季を取り入れた花を飾り、家庭的な雰囲気づくりの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間では、日差しはカーテンを利用し、音楽を流す時も音量が不快にならないよう注意している。浴室は使用後の掃除、消毒、月1回換気扇の掃除をし、トイレは毎日掃除を行い汚れた時には其の都度掃除をし、綺麗な状態で使用出来る様に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間には気の合った御利用者様同士で過ごせる場所があり、テラスにもソファを置き気の合った御利用者様や職員と交流できる場所がある。	○	楽しく過ごせるようにゲーム等用意しているが、他にもっと楽しめる事など職員で話し合いをして行きたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みの家具や仏壇、テレビなどが持ち込まれ、自分の好みの配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は強制自動の換気であり、気になる臭いや空気のおどみ等は、常時清潔にし臭いの発生を止めている。また、御入居者様の室内には入り口と部屋の中心に温度計を設置し温度監視をしている。	○	常時温度計を確認し部屋の温度調節に勤めていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	木造作りで弾力性のある造りに成っている。主な場所には手摺りなどがあり、廊下も広く、障害に成るものは置かず生活しやすいよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりが理解と興味のある範囲内で自分の出来る事を見守り、自分で生活が出来るように支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外周りには花や植物を植え、共有スペースには運動器具を設置している。	○	運動器具がほとんど使われていないため無理のないように声掛け使用の仕方、安全性を伝えて行きたいと思う。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ② ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ② ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ① ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ① ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ③ ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ② ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ① ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ① ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ① ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 全職員は介護者として利用者様達の個々の疾病状態、認知症状、正確、困っていること、楽しいこと等を把握し、また、ケアプランを理解し同じ方向を向き、同じ目標に向かい日々のケアに取り組んでほしい。また各職員が介護者としても人としても向上出来、介護以外の業務も介護の一環だと理解し、他のスタッフに対しても責任を持ち、周りや自分自身にも嘘のない介護者として成長できるようお互い勉強しあいたいと日々取り組んで居ります。